

## 2022年3月期決算の概要について

### 【単独業績】

		当期		前期 (2020年4-2021年3月)
		(2021年4-2022年3月)	対前期	
売上高	百万円	414,061	+110,518	303,543
営業利益	百万円	41,059	+44,401	△3,342
経常利益	百万円	43,391	+45,480	△2,089
当期純利益	百万円	57,061	+87,352	△30,291
期末総資産	百万円	341,075	+14,756	326,319
期末借入金残高	百万円	19,000	▽54,500	73,500
鋼材出荷量	千t/期	1,192	+119	1,073
平均価格	千円/t	347	+64	283
ニッケル価格 <sup>(*1)</sup>	\$/Lb	8.38	+2.13	6.25

(注)：金額については表示単位未満の端数を切り捨てております。

(\*1)：ニッケル価格は LME 現物価格の三ヶ月ずらしの値を標記しております。

### 【主要財務指標 (%)】

		当期		前期 (2020年4-2021年3月)
		(2021年4-2022年3月)	対前期	
ROS	(%)	10.5	+11.2	△0.7
ROA	(%)	12.7	+13.3	△0.6
自己資本比率	(%)	54.4	+7.5	46.9
D/Eレシオ		0.10	▽0.38	0.48

### 【参考】原料関連諸元推移

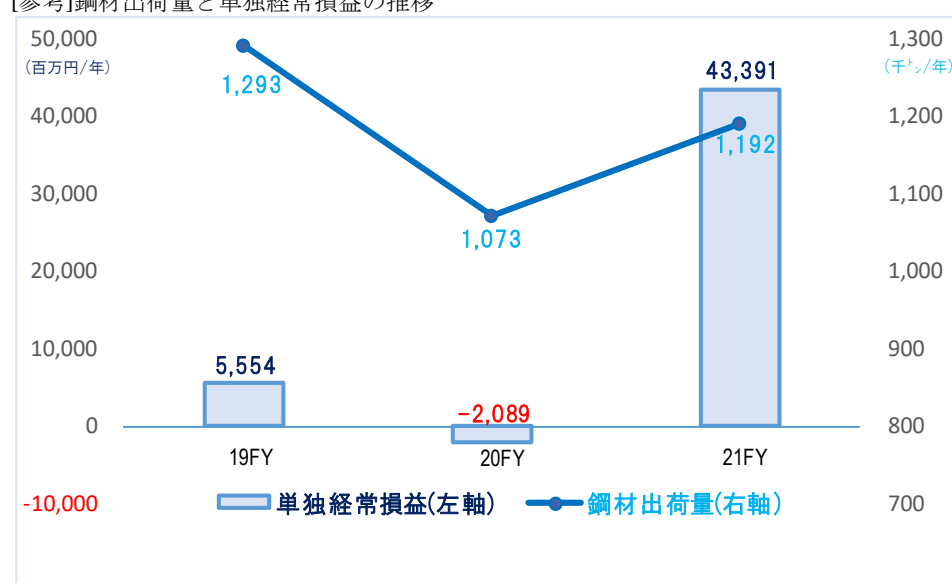
	2019年度				2020年度				2021年度			
	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期	1/四期	2/四期	3/四期	4/四期
ニッケル	5.56	7.08	6.97	5.77	5.53	6.46	7.23	7.99	7.87	8.68	8.99	11.85
フェロクロム	128	112	110	109	122	122	122	126	164	164	188	188
為替	110.9	108.4	109.8	109.9	108.6	107.2	105.5	106.9	110.5	111.1	114.7	117.2

ニッケルは LME 現物価格(\$/Lb)、クロムは南ア対日オファー価格(¢/Lb)、為替は対 US\$ (TTS、¥/\$)の値を標記しております。

## 1. 単独決算の内容について

- 今期の世界経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の抑制と経済活動の回復を両立させ、一部の部品の供給制約や物流の混乱などの影響はあったものの、着実に回復への歩を進めてきた。そのような中で、ステンレス鋼産業においては実需の回復と並行して原料価格の高騰が続き、コスト及び製品価格に大きな影響を受けることとなった。
- かかる環境の下、当社は、販売価格の適正化を通じたマージン改善や最適生産体制構築による固定費低減など、事業基盤の強化に努めた中で、出荷量の回復(鋼材出荷量 1,192 千ト、前年同期比+11%)や、ステンレス鋼固有原料価格の高騰に伴う在庫評価益の計上などにより、統合後最高益となる 434 億円の経常利益を計上した。

[参考]鋼材出荷量と単独経常損益の推移



## 2. 本年度の取り組みについて

- 未だに新型コロナウイルス感染症の終息時期が見通せないことに加えて、本年2月のロシアによるウクライナへの武力侵攻と、これを受けて我が国を始めとする国際社会がロシアに対して課した経済制裁の影響により、エネルギーや金属資源等の一次産品価格が急騰、世界経済には急速に先行きへの不透明感が広まっている。特にステンレス鋼産業では、固有原料であるニッケルやクロムの価格が歴史的な高値水準に達し、さらには為替が円安に振れているなど、当面の当社を取り巻く事業環境には厳しいものがある。
- かかる環境の下、当社は、引き続き最適生産体制の構築を進める一方、安定生産の維持、操業指標の改善などによる変動費の低減や、販売条件の最適化を通じた獲得限界利益の最大化に取り組み、事業基盤の一層の強化を図ると共に、基礎素材として重要な要素である価格安定性に優れる省資源型ステンレス鋼を始めとする高品質で付加価値の高い製品を、ソリューション技術と共にお客様にお届けすることで、今後とも我が国産業のサプライチェーンを支えていく所存である。

以上